

認定特定非営利活動法人
日本雲南聯誼協会
【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階
Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261
Email:yunnan@jyfa.org URL:<http://www.jyfa.org/>
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel:+86-871-3311468 Fax:+86-871-3320658
編集・発行人 初鹿野 恵蘭
印刷協力 (株)日経印刷 (株)技術評論社 デザイン ARTY STUDIO



雲南省の教育改革

2010年8月追跡調査実施

日本雲南聯誼協会が小学校建設の支援活動を開始して10年。この間、雲南省の教育環境は大きく様変わりをしています。一昨年から雲南省教育局は、効率的な教育環境を整えるために各地域の学校統合と完全小学校化(1年生から6年生までが在学する学校)及び通学困難な児童のための完全寄宿制の整備などを柱とする、大規模な教育改革を行っています。昨年8月、初鹿野恵蘭理事長がシャンゲリラ県並びに麗江市を訪問し、両地の関係者から今回の教育改革の概要を聞くことができました。／



▲ 支援第13校目の「日中友好共卓僕愛小学校」を視察する協会視察団一行
(2010年8月22日:シャンゲリラ)



▲ 李健満/迪慶州僕務弁公室幹部らと教育改革の概要説明で意見交換する初鹿野理事長
(2010年8月22日:シャンゲリラ)

それによると、現在、雲南省政府及び地方政府の教育予算は関係者の努力にもかかわらず充分な額が確保されているとは言えず、小学校1校当たりの通学圏が日本と比べて格段に広範囲なため、数多くの学校が老朽化したまま各地に点在しています。また、これにともない必要な教員の数も充分に確保できていないのが実情です。加えて、地区によっては児童生徒数の減少が続き、雲南省教育局の基準児童数を下回る学校がでてきています。／

協会支援校も
統廃合の対象に



雲南省教育局は今回の教育改革によって、限られた教育予算と人的資源を効率的に配置することによって、子どもたちにより良い学習環境を整備し、子どもたちの基礎学力向上と教職員の指導力の向上をめざしています。そして、なによりも子どもたちの立場に立った環境整備が重要であることは雲南省関係者とも意見が一致しています。このため、協会がこれまでに支援したいくつかの学校が統廃合の対象になっています。

具体的には、

完全小学校に！

高安幼稚園に！



第10校「日中高安治僕心小学校」
(2006年10月開校)



第20校「日中友好吉山良洋小学校」
(2009年6月開校)



「50の小学校プロジェクト」
現在調査続行中です！



年の瀬も押し迫る12月18日、東京都内のビヤステーション恵比寿で協会恒例のチャリティー忘年会が開かれました。今年最後の10周年記念イベントとあって、地方から駆けつけた会員やボランティア、役員など100名にも及ぶ善意の志が集いました。

10周年記念誌の頒布や10周年記念DVDの上映、少数民族のダンスに笑顔が広がりビンゴゲームで会場の熱気は頂点に。来年への確かな活動の手応えを感じる、3時間にも及ぶ懇親になりました。

【当日ボランティア協力(敬称略・順不同)】高山千代美、滝澤崇、鈴田洋、三浦知佳、小林稔、佐々木英介、内田佐也、岩沙圭、張南、梁春、鄭忠、峰尾勝美、ブランニューダンスマーケット、林則幸、ツチダアツシ、桂紀美子
【ご協力団体】サッポロホールディングス株式会社様/株式会社技術評論社様/株式会社昭和情報プロセス様/株式会社ワッツアップ様/大月カントリークラブ様/株式会社メディアネットインターナショナル様/日本経済新聞株式会社様/NPO法人、21世紀のカンボジアを支援する会様/合資会社村上製本所様
この場をお借りし、心より御礼申し上げます。

25の小さな夢基金 卒業生の声 第4回

「25の小さな夢基金」卒業生の今をお伝えするインタビュー、4人目はワ族の栗傑皇さん。栗傑皇さんは今年9月から昆明理工大学の管理・経済学部に通っています。



Q1 今の生活はどうですか?

大学に入ったばかりの頃は色々慣れませんでしたが、今はすっかり慣れて、クラスメートとも仲良くなりました。学校生活に満足しています。

楽しく、幸せです。授業にもすぐ適応しました。全て順風満帆です。

栗傑皇さん。サポートさんからのお手紙とプレゼントを受け取りました。

Q2 今の春雷クラスの生徒に一言。

今の時間を大切にすること、そしてあなたが持っているものを大切にすることです。あなたを助けてくれた方々を忘れないでください。その方々のために、そしてあなた自身のために頑張ってください。

Q3 日本の皆様にメッセージをお願いします。

大学に入れたのは皆さんの助けがあったからです。私は今とても幸せです。春雷クラスを代表して皆さんにお礼を申し上げるとともに、皆さん一生幸せであるよう心からお祈りいたします!

■ サポーターさんへのメッセージ:

現在イギリスにいらっしゃる私のサポーターさんご夫婦に一番感謝しています。私と私の家族はあなた方に助けて頂いたことを一生忘れません。

【写真1】中華人民共和国駐日本国大使館・許澤友、総領事「雲南省の少数民族の子どもたちが学校に行く笑顔を見て感動しました」と協会の教育支援事業を称えました

【写真2】「今年最後の10周年記念イベントにお集まりいただき感謝します。これからも末永いご協力・ご支援を」と初鹿野理事長

【写真3】協会表彰を授賞した(左から)遠藤功氏(理由:協会発足時より理事として貢献)、狩野千尋氏(『10周年記念誌編集長・小さな壁新聞プロジェクト』)、田中望氏(同:協会リーフレット作成や記念誌アゲ

イン)、アーサー加藤氏(ご夫人才代理)、ホームページ作成・会報・記念誌デザイン)、船見広伸氏(同:様々なイベント協力)

【写真4】暮夜で「2010年活動報告&10年を振り返る」のDVD作成にご協力いただいた株式会社ワッツアップの林則幸氏(会員)とナレーションの高山千代美氏(当時は司会者、会員)、演出家のツチダアツシ氏にもご尽力いただきました

【写真5】アラクショーンみんなでダンス!ナシ族の踊りに興じる参加者の面々。みなさん楽しそうですね

【写真6】全員に景品付きの懇親・ビンゴゲーム大会は大いに盛り上がりました

【写真7】初鹿野理事長を囲む岩間辰嗣副会長(左)と賛助会員の(右)キツツ最高顧問(清水雄輔氏)、法人会員のメディアインターナショナル(株)代表取締役の三木秀隆氏(右)

【写真8】杉谷寺理理事を囲んで名残を惜しむ理事長や理事の皆さん

今年も八王子いちょう祭り 16名のボランティア大活躍!



▲秋晴れの下、祭りの象徴であるイチョウの黄葉が鮮やかでした



▲いつもお手伝いしてくださるボランティアの皆さん

市民手作りの祭りとして定着した八王子いちょう祭りは今年で31回目の開催。協会の参加も恒例となり、今年7回目の出展を果たしました。11月20日(土)21日(日)の2日間、鮮やかな秋晴れの空の下、色とりどりの民族衣装を身にまとった16名のボランティアが大活躍。毎年人気のブーアル茶の試飲は、初日で去年2日間を遙かに上回る500杯を配り終えました。

協会では認定取得を機に營利活動の見直しを行い、今年より物販を行わないこととなりました。いちょう祭りではご寄付を頂いた方に心ばかりの民芸品をプレゼントする方法をとりましたが、それでも2日間で34,645円のご寄付を頂戴することができました。これらのご寄付は、雲南少数民族教育支援のために大事に使わせて頂きます。

【ボランティア協力(敬称略・順不同)】峰尾勝美、峰尾洋子、滝澤崇、岩沙圭、久慈智弘、遠藤幸絵、林則幸、鈴木肇、東郷浩、張静風、東京本部事務局(初鹿野惠蘭、山田美葉)【会場提供】小島様

「25の小さな夢基金」サポーター募集中!

▶ 詳しくはホームページをご覧ください。
http://www.jyfa.org/2_education/edu_8.html



期待どおりの結果得られたかを評価 「100万回の手洗いプロジェクト」最終視察

—寄稿・薄田榮光プロジェクトマネージャー



プロジェクトで作られた手洗い所でカーテンを洗う子どもたち(白雲小学校)

100万回の手洗いプロジェクトは2010年12月に、プロジェクトとしての活動を終了する。

これまで、私を含めて4人の日本人スタッフが雲南に派遣され、雲南支部スタッフほか内外のボランティア、「取り巻き」…様子を見に来た人、備務弁公室、教育局、雲南エコネットワークなど、多くの中国側関係者がこのプロジェクト活動に関わった。

こういった支援者・関係者との調整、数十万字にも及ぶ記録・書類・報告書の作成を経て、2010年3月、廉販小学校と白雲小学校の手洗い場や太陽熱シャワー室が完成し、延べ56人の先生に対して衛生教育研修を実施することができた。プロジェクト

活動の85%はこの時点で終了したのである。

では、プロジェクトは成功したのであろうか? プロジェクトの実施目的は「小学校の健康・環境衛生に対する対処能力が高まる」として、予定どおりの活動を終えることではない。

対処能力とは、例えば、先生方だけで衛生教育を企画・実践できること、感染予防に繋がる手洗い行動などを子どもたちが習慣的に実践できるようになること、である。残り15%の活動は整備された施設をどう維持・利用するのか、先生方がどう衛生教育活動を実施するのか、見守る(モニタリング)ことが中心であった。

11月の最終派遣では、プロジェクト開始時とプロジェクト終了前に実施した子どもたちへのアンケート結果を各学校にフィードバックし、プロジェクトが期待どおりの結果を得られたかどうか



薄田氏近影

評価を行うことが主な目的だった。もちろん評価には、プロジェクトを実施した正当性は今もあるのか、今後はどうすべきなのか、得られた教訓などをまとめることも含まれる。

汚い、臭い、うるさいを満載した怒江行き夜行バスに乗りこなすこともないと思うと緊張が緩んでもしまったのか、運々として分析作業が進まない。ともあれ、近く、評価結果を報告できるものと思う。

「ここにちはCSR」

法人会員第1号の語りも、 写真には何故か私の姿が…



このコーナーでは、協会創立以来ご支援頂いた企業の皆様方にスポットを当て、協会との関わりや対中ビジネスの現況などをお聞きする新企画です。記念すべき第1回は、協会の前身である「日本緑葉基金会」として八王子の地で活動を続けていた際に初代法人会員となった(株)フジタプランニング・藤田文彦社長の登場です。

■第1回 株式会社フジタプランニング

藤田社長は2000年2月頃に、市の広報誌で初鹿野の活動が紹介されているのを知り、喫茶店で会うことになったものの「20人ほどのおばさま達がいて相手されず、誰が理事長か分かりませんでした」と、初めから「混沌」と暗示させる出会いだったようです。活動の拠点は理事長の自宅で、その後ワンルームマンションに引っ越し。協会の設立実行委員会を立ち上げることができたのは3月で、吉祥寺の中華料理店に30人ほどの会員が集合。漸く本格的な教育支援活動の曙光が見えはじめ胸躍ったといいます。

当時の藤田氏を理事長は一番大変な時期に良くやつてくれました。知らないことも多く会員証の作り方から機材の借用まで助けていただきました。でも、引っ越しないとこない人ですね」とほくそ笑む。

一方、藤田氏は「困った時にだけ電話が来ました。支援者増えてうまいじゃない、応援に来て~とかね」(笑)。協会設立時には会社を1週間休むほどの意欲を示すも、「当日は会場の隅で会員章の製作に追われていました。しかし、なぜか集合写真に私の姿がありません。今もって不思議です!」とジョークを交えながらも憤慨やるかたない? 藤田社長。

同社の事業は、主に発展途上国への保健医療や教育などのコンサルタントの実施で調査、監理、評価に対する支援業務を行っています。現在30ヵ国・15プロジェクトで活動中。今後、社会貢献できるNPOネットワーク事業を検討中で雲南での日本人向け高齢者施設の検討など、協会とのコラボも視野に入っています。

※ CSR=Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)
利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任を持つこと。

会社概要

1998年11月 八王子で創業。
2001年4月業務本格化に伴い事務所を新宿に移転。

ISO認証
JISQ9001:2008
ISO9001:2008
JMAQA-2049

住所: 東京都新宿区北新宿1-8-17
ヒカリタビル5階
電話 03-5389-1315
FAX 03-5389-1350
Web: <http://fpc.b-info.jp/>
Mail: info@fujita-plan.com

新顧問3名が就任—10年最後の役員会



新井淳一顧問。東大経済学部卒業後、日本経済新聞社に入社。1975年にNY特派員。帰国後は総合編集室・編集局経済部長・東京本社編集局長を歴任。2008年、代表取締役で日経を退社。現在は社会法人日本経済研究センター会長。



野原完蔵顧問。純半ホールディングス株代表取締役社長。純半グループの起源は慶長3年(1598年)で400有余年の歴史を誇る老舗。現在は建設・環境関連から生活・消費関連分野までカバーする事業を展開。本店は長野県農業市。



渡加貝顧問。上海市出身。経営50周年の1995(平成7)年、放送70周年記念番組として全7回、計10時間50分で描いたNHKドラマ「大地の子」の助監督を務める。その後、独立して監督に。代表作に「さくらんぼ母ときた道」「夢の壁」など。

2010年11月25日(木)17時から今年度3回目となる役員会・顧問会が東京本部で開催されました。冒頭、10月より新しく顧問に就任した新井氏と張氏からご挨拶を頂戴し、また当日ご欠席だった野原(壳爾氏)について初鹿野理事長と片岡顧問からご紹介がありました。

議論では、2011年度税制改正によりNPOに対する寄付の控除が拡大されることを言及。認定NPO制度の活用も含め税制上の優遇措置などのメリットを如何に周知し、広く支援を募っていくかが課題となるため、今後の運営について役員・顧問が一致協力し知恵を出し合っていく必要性を確認しました。

【出席者(敬称略・順不同)】初鹿野恵警理事長、渡加貝、中村有里子、桂正徳、大驚修平、初鹿野(以上理事)、村松健児、田崎誠(以上監事)、岩隈辰志、片岡巖、新井淳一、小澤文輔、東郷浩、渡加貝(以上顧問)、大越恭治、狩野千尋、荒沢崇、山田美葉(以上事務局)

雲南を彩る25の星たち 連載第16回 ミャオ族

ミャオ族(苗族)は中国の他、ベトナム、タイ、ラオスなどに分布し、中国以外ではモン族と呼ばれるのが一般的です。中国のミャオ族は三つの方言集団に分かれています。更に女性の衣装や文様の色から、黒ミャオ・白ミャオ・青ミャオ・紅ミャオ・花ミャオなど細かく区別されます。その民族衣装は多彩で、雲南省内のミャオ族だけでも10通り以上のバリエーションがあり、雲南省内の少数民族のうち1,2を争う鮮やかさを誇ります。

民族の歴史はとても古く、中国の伝説では、紀元前26世紀頃黄帝との戦いで敗れた「蚩尤」という民族がミャオ族の始まりとされていますが、現代のミャオ族には春秋戦国時代の楚の末裔といわれる部族や、中国の歴史上最古の民族である羌族の子孫を名乗る部族もあるということです。

現在、雲南省に住むミャオ族は約105万人で、昭通・昆明・曲靖・楚雄の「大花ミャオ」、文山・紅河の「白ミャオ」、金平の「黒ミャオ」などの人々が、独自の文化を継承しながら暮らしています。(雲南支部)



ミャオ族の女性の鮮やかな衣装(支援第15校昭通市木杆林区小学校開校式にて)

速報 第23校目建設決定!

翠花鎮中心小学校（雲南省昭通市大關県）

教育支援活動の柱である「50の小学校プロジェクト」、第23校目の支援小学校が「翠花鎮中心小学校」に決定いたしました。翠花鎮中心小学校はイ族・回族など946人の子どもたちが通う、地域の中心学校です。雲南省政府の方針により、僻地の小さな小学校は中心学校に統合されています。私たちの支援をより永続的で実りあるものにするために、今回は中心小学校が選ばれました。

同校の教室棟は90年代初頭に建てられたもので、元々強度に不安があった上、2008年の四川大地震の影響で政府に「危険建築物」の指定を受けるほど破損しました。子どもたちと先生が安全に勉強するため、教室棟の建て直しが急がれます。

建設は既に始まっていますが、必要な支援金20万元(約260万円)の目処がたっておりません。どうぞ皆さんのご厚意をお寄せください!

ご協力ください

トクテイヒエイリカツドウホウジンニッポンウンナンギキョウカイ
特定非営利活動法人日本雲南聯誼協会

三菱東京UFJ銀行

目黒駅前支店 普通口座 1300380

ゆうちょ銀行 00100-8-610935

初鹿野理事長が東寺方小の子どもたちと交流 大鷲理事が仲立ち、「小さな壁新聞」も紹介



▲中国の先生2、3名が一組となって担当の学級に入り25分ほど中国(出身地)のことを紹介する授業が組まれました



▲初鹿野理事長は、上海から参加した祁俊先生・陳雅玲先生と一緒に子どもたちと交流しました。先生が上海の街をDVDで紹介後、中国の遊びで子どもたちとゲーム。日本の遊びであるお手玉や剣玉にも興じました

財団法人ユネスコ・アジア文化センターが実施する教員交流プログラムの一環として10月12日～25日まで国内で「中国教職員招へいプログラム」が開催。雲南省など中国各地から120名の教職員が来日し、15日には東京での交流校に選ばれた多摩市立東寺方小学校(増田勉校長、全校児童362名)児童と交流しました。

同市教育委員会に子どもたちへの「企画授業」の提案を行っている当協会の大鷲修平理事の仲立ちで、初鹿野理事長が交流事業に参加しました。協会が推進している「小さな壁新聞」プロジェクトも両小学校に紹介していただいております。

当日のスケジュール説明の後、中国の先生2、3名が一組となって担当の学級に入り子どもたちと交流を深めました。言葉の通じない先生と児童、はじめは少しぎこちなさもありましたが、時間が経つにつれて大きな歓声や拍手が沸きました。

東寺方小学校では国際交流事業が盛んで、子どもたちはこれまで色々な国の人と触れ合う経験もあることから物怖じしない様子が見てとれました。



10周年記念誌「笑顔を君に」頒布を開始



貧困・困窮の厳しい現実と闘う子供たちの姿。必要な支援がここにあるーそのような実感迫る写真の数々が、協会の活動の意義を雄弁に物語っています。本紙は、当協会創立10周年的記念誌として製作されました。末永い真的「友好」とは何か?そんな思いも過る日中の大きな「無償の愛」に包まれた珠玉の記念誌、是非、お手にとってご覧ください。(A4変形版・128頁フルカラー)

お願ひ

記念誌の製作に当たりましては、ほとんどがボランティアの方々の無償の作業協力によって行われました。しかし印刷や用紙、デザイン等は極めて格安にしていただきましたが、それ相応の実費が発生しました。

定価を付けての販売が「認定」NPO法人日本・雲南聯誼協会の活動方針と相容れませんので、頒布に当たりましては1冊2000円程度のご寄付をお願いできれば幸いです。その旨をご理解の上、何卒、ご協力をお願い申し上げます。

連載 | 鏡頭裏的世界 -レンズの中の世界-



「No.6」以心伝心

乗り合いバスで一緒になったお父さん。物凄く訛った中国語なのか民族の言葉なのかもわからなかっただけれど、心はぱっちり通じました。多分。(山田美葉 2010年9月17日紅河ハニ族イ族自治州建水県羊街)

イベント情報

1月16日(日)大宮支部新年会

場所:日本雲南聯誼協会大宮支部

主催:日本雲南聯誼協会大宮支部

2月6日(日)2011春節パーティー

場所:埼玉県上尾市文化センター301号室

主催:日本雲南聯誼協会大宮支部

後援:上尾市国際交流協会

○上記イベントはどなたでもご参加頂けます

○お問い合わせは大宮支部

TEL/FAX048-325-3987

(支部長:寺内明子)まで

初鹿野理事長 9月に続き日中「夢」サロンで講演



協会の10年間の活動を収録したDVD上映で始まった同会。雲南省の少数民族の様子を見るのは初めての人が殆どで、10年にも及ぶ協会の教育支援活動に感嘆の声が上がりました

NPO法人セフティマネジメント協会(中山裕登理事長)主催の「第12回日中『夢』サロン」が12月8日に都内のホテルで開かれ、9月に引き続き初鹿野理事長が講師に招かれ講演。協会が推進する教育支援活動への理解を中心に3時間にも及ぶ会員との交流に勤めました。

今回は、当会用にビジネス関連の資料も作成し解説。行政の中心を移す「新昆明」移転計画や2013年開港予定の新昆明空港建設の現況にも言及。東南アジアへのゲートウェイとして注目を集め昆明から4本の高速道路建設計画などにも触れ、「皆様方のビジネスにも大きなチャンスを秘めています」と述べ、昆明への視察も呼びかけました。

岡崎専務理事は、「なかなか聞くことが出来ない貴重な話。機会があれば是非、訪ねて見たい」と抱負を語りました。

編集後記

2010年最後の「10」にまつわるイベントであるチャリティー忘年会も盛況裡に終わりました。協会の活動精神は「十年育樹 百年育人」を座右の銘としています。この会報が皆さまのお手元に届くのは2011年です。協会創立20周年に向けた新たなスタートの年ですが、さらにその先にある「100」を見据え焦ることなく、皆様と一緒に歩を進めていきましょう!